

本書は放射線初学者のために編まれたと再々述べてきたが、実は既にどっぷりと放射線の世界に身を浸している方にも、自分の知識や経験の何が欠けているのかを問い直すために役立つ1冊でもある。伊達に28年間読み継がれて来てはいない。是非、ご一読を！

(井上浩義 慶應義塾大学医学部)

(ISBN978-4-89073-236-4, A5判 135頁, 定価本体1,400円, 日本アイソトープ協会, ☎03-5395-8035, 2014年)

カウントダウン・メルトダウン(上・下巻)

船橋洋一 著



“民間事故調”の調査を指揮した著者が官邸、政府、自衛隊、東京電力(株)、米軍、被災地の関係者など300人近い方々から取材を行い、東電福島第一原子力発電所事故について関係者が事故にどのように対応したかを、序章、1～21章、終

章の構成で記載した力作で、平成25年大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した作品である。各章の表題は、上巻：プロローグ、序章：全交流電源喪失、第1章：保安院検査官はなぜ逃げたか、第2章：原子力緊急事態宣言、第3章：ベント、第4章：1号機水素爆発、第5章：住民避難、第6章：危機の霧、第7章：3号機水素爆発、第8章：運命の日、第9章：対策統合本部、第10章：自衛隊という「最後の砦」、第11章：放水、第12章：トモダチ作戦、第13章：海軍VS国務省、第14章：ヨコスカ・ショック、第15章：ホソノ・プロセス、第16章：最悪のシナリオ、第17章：キリン登場、第18章：SPEEDIは動いているか、第19章：飯館村異変、第20章：計画的避難区域、第21章：落城1日、終章：神の御加護、あとがき、お話を伺った方々、参

考資料・参考文献という構成となっている。

あとがきに述べられているように、民間事故調は2011年8月27日の準備会でスタートし、2012年2月28日に、福島原発事故独立検証委員会 調査・検証報告書を発表し解散した。その後2012年3～10月の8か月間に取材を行い、この間に東電事故調、国会事故調、政府事故調の報告書が公表されていて、この内容も含めて執筆されている。文中「」の部分は当事者のその時の発言で、< >の部分は当事者の想念が示されている。内容の一部をかいつまんで紹介する。

第1章に記載されているように、本来事故原発にいななければならない保安院の保安検査官が事故を起こした原発を離れて、オフサイトセンターへ逃げるという事態が発生している。原子炉運転中に全交流電源喪失のような事故が発生した時、原子力災害対策措置法では、現地対策本部長がオフサイトセンター(福島第一発電所から5km, 第二発電所から12kmの所に設置されている)を緊急指揮所として用い、原則として2名の原子力保安検査官が現場に行き、現場確認を行わなければならない、とされている。しかし、福島第一原発敷地内に残ることになった保安検査官4人は、3月14日午後「3号機で水素爆発があり、身の危険を感じる」、「4号機の燃料プールで問題が起こったら、再臨界が起こり、誰も助からない」などとして、14日夕方オフサイトセンターへ戻った。当時、福島第一原子力発電所の吉田昌郎所長以下多くの方々が事故の収束に向けて原子炉の危機が迫る状況で、必死で作業をしている中での出来事である。著者は、保安院は過酷事故発生の際のオンサイトでの対処の危機管理のプロを育ててこなかったことを原因としている。

第21章に記載されているように圧倒的に少ない人数での事故対応が強いられた。15日の早朝4号機建屋の爆発と2号機格納容器の損傷の際、従業員を退避させ、残ったのは70人だった。この数は、5つの原子炉と6つの燃料プールを相手に格闘していた現場としては、絶望的に不十分で全面撤退か全員玉砕に追いやられるかの規模でしかない。これは、東電本店が重大事故に対する緊急プランニングを持たず、政府もまた原子炉制御不能の場合の対応策も住民避難対策もなく、緊急対応部隊も備えていなか

ったためとしている。米国政府の国務省担当官は、従業員の数について、冗談のように少ない規模であり、このレベルの原発事故だと米国なら数千人で対処する。戦争計画のようなもので臨まなければならないところだと、述べていたと記載されている。

このほかに、福島第一原子力発電所の吉田昌郎所長に関する記載、自衛隊の果たした役割、米軍の果たした役割など、メディアであまり伝えられなかったことを読むと、関係者がどれほど苦難と闘ってきたか、またどのような気持ちで対処してきたかにつ

いて、改めて深い敬意の念を抱かせるものであると同時に、我が国の緊急時に対する備えのなさに背筋が寒くなる思いを感じる。この大事故に関する必読の書である。

(柴田徳思 日本アイソトープ協会 常務理事)

(〈上巻〉ISBN978-4-16-376150-3, 〈下巻〉ISBN978-4163761602, 四六判 〈上巻〉479頁 〈下巻〉475頁, 定価本体1,600円, (株)文藝春秋, ☎03-3265-1211, 2012年)



☺ 会員係よりお願い ☺

Isotope News や RADIOISOTOPES の送り先、勤務先などが変わった場合は

メール、Fax、ハガキ等でご連絡ください

▷▷総務課会員係

☎113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45

☎03-5395-8021 Fax 03-5395-8051

E-mail Kaiin@jrias.or.jp

…………… 会員番号をお忘れなく ……………

6版 密封線源の基礎 —第2種・第3種放射線取扱主任者のために—

編集・発行 公益社団法人日本アイソトープ協会【2013年5月発行】

B5判・291頁 定価3,500円+税 会員割引価格3,140円+税

第2種放射線取扱主任者試験受験テキスト。2色刷として試験の重要ポイントを明瞭にしています。6版では、原子力規制委員会の発足に伴う2013年4月施行の最新法令に準拠。最新の出題傾向に対応するため内容を吟味し、新たな情報を取り上げ解説しました。単なる試験対策書にとどまらず、放射線取扱主任者(届出版売業者および届出賃貸業者の第3種を含む)となってからも長く活用できるテキストです。

公益社団法人
 **日本アイソトープ協会**
Japan Radioisotope Association
〒113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45
TEL (03) 5395-8082 FAX (03) 5395-8053

- ◆ご注文はインターネットまたはFAXにてお願いいたします。
JRIA BOOK SHOP : <http://www.bookpark.ne.jp/jria>
BookPark サービス : FAX (03) 6674-2252
- ◆書店でご注文の際は「発売所 丸善出版」とお申し付け下さい。